JA共済

令和7年12月19日（№07-33）

News Release

ＪＡ共済連がα世代の子どもを持つ、47都道府県の親１万人に「農業体験と教育効果に関する調査」を実施

体験価値重視の時代！直近1年以内にα世代の半数以上が農業を体験

親の約8割が農業体験を通じて、子どもの成長を実感

農業を体験したα世代が抱く農業のイメージ「社会の役に立つ」がトップ！

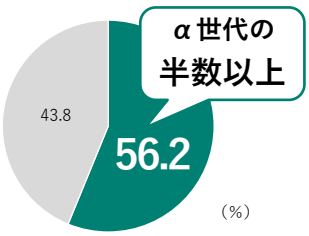
教育評論家・尾木ママ「農業には人を育てる力がある。農業体験は子育ての味方」

ＪＡ共済連（全国共済農業協同組合連合会・代表理事理事長　村山 美彦）は、農業体験がもたらす教育効果に着目し、α世代※の子どもを持つ親とα世代の子ども本人を対象とした、農業体験への意向や期待される効果、身についたこと等を調べる「α世代の農業体験と教育効果に関する調査」（2025年10月31日～11月7日）を実施しました。主な調査結果は以下の通りです。

※α世代＝2010年以降に生まれた15歳以下の子ども

①直近1年以内にα世代の半数以上が農業体験

体験率 1位「長野県」、2位「青森県」、3位「福井県」「島根県」



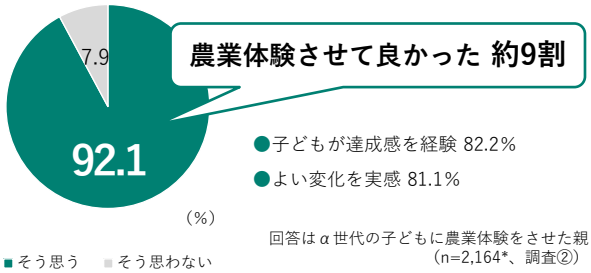
回答はα世代の子どもを持つ親（N=10,000）

α世代の農業体験が盛んな都道府県TOP5

1位	長野県	71.5%	(n=151)
2位	青森県	69.8%	(n=149)
同率3位	福井県	69.3%	(n=101)
同率3位	島根県	69.3%	(n=101)
5位	宮崎県	67.0%	(n=109)

回答はα世代の子どもを持つ親（N=10,000、調査①）

②親の約9割が「農業体験をさせて良かった」



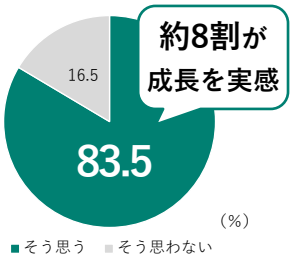
●子どもが達成感を経験 82.2%

●よい変化を実感 81.1%

回答はα世代の子どもに農業体験をさせた親（n=2,164*、調査②）

＊調査②の回答者(2,350人）のうち、子どもに農業体験をさせたことがある親

③約8割の親が農業体験した子どもの成長を実感



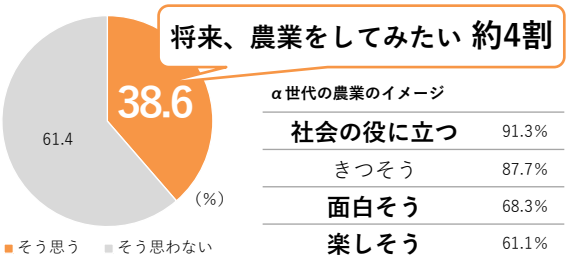
α世代の子どもに農業体験させた親（n=2,164）

農業体験を通じて身についたこと

1位	自然や環境を大切にするこころ	31.7%
2位	感謝するこころ	26.1%
3位	観察力	16.9%
4位	探究心	10.5%
5位	心や情緒の安定	9.7%

α世代の子どもに農業体験をさせた親（n=2,164、調査②）

④農業体験をしたα世代の約4割が「将来農業をしてみたい」と回答



農業体験をしたα世代（n=867）

α世代の農業のイメージ

社会の役に立つ	91.3%
きつそう	87.7%
面白そう	68.3%
楽しそう	61.1%

農業体験をしたα世代（n=867、調査②）

「α世代の農業体験と教育効果に関する調査」調査概要

●実施時期：2025年10月31日（金）～11月7日（金）　●調査方法：インターネット調査　●調査対象：【調査①】4歳～15歳のα世代の子どもを持つ30代～50代の親10,000人（男性5,035人、女性4,965人）、【調査②】調査①のうち「子どもに農業体験をさせたい」と回答した、4歳～15歳のα世代の子どもを持つ30代～50代の親2,350人（各都道府県50人ずつ）と小学5年生～中学3年生のα世代の子どもn=936（男子496人、女子440人）●調査委託先：電通マクロミルインサイト　※本調査に記載の数値は小数第２位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合や表記した数字の合算した値と異なる場合があります。

教育評論家・尾木ママに聞く、人を育てる農業体験の力 ～農業体験は子育ての味方～

教育現場では体験的な学びや探究的な学びといった、IQだけでなくHQ（Humanity Quotient）、いわゆる「人間力」を育む取り組みが注目されています。特にデジタルネイティブのα世代の子どもたちにとって、“本物に触れる”体験の価値はより一層高まっています。中でも農業体験は、HQを高める要素が豊富で、「人を育てる力がある」といえます。ぜひ子育てにも取り入れてほしいです。

「α世代の農業体験と教育効果に関する調査」調査結果

●JA共済連では、農業振興活動の一環として、農業体験がもたらす子どもへの教育効果に着目し、α世代（2010年以降に生まれた15歳以下の子ども）の親と小学５年生～中学３年生のα世代の子ども本人を対象とした調査を実施しました。

●α世代は、幼少期からデジタルデバイスが身近にある世代で、デジタル分野の教育体験が注目されがちですが、調査の結果、**直近1年以内の農業体験の経験率は56.2%で、2人に1人は農業体験**があることが分かりました。また、**α世代の子どもを持つ親の75.7%が「農業体験をさせたい」**と回答しており、子育てにおける農業への期待がうかがえました（調査①）。

●実際に農業体験をしたα世代の農業へのイメージは、**「社会の役に立つ」（91.3%）**が最も高く、「面白そう」（68.3%）、「楽しそう」（61.1%）、「やってみたい」（55.6%）など、ポジティブな意見が多数でした。農業体験をした子どもの親も、**「体験させて良かった」（92.1%）**、**「子どもの成長を実感」（83.5%）**、**「子どもに達成感を経験させられた」（82.2%）**などと回答しており、農業体験の効果を実感していました（調査②）　。

●一方で、**77.7%の親が「子どもができる農業体験の機会が少ない」**と感じており、**75.7%が「体験の機会がもっと欲しい」**と望んでいます（調査①）。将来の仕事として農業を考える子どもも増えており、農業体験をした**α世代の38.6%が「将来、農業をしてみたい」**と回答。**親も83.4%がそれを「応援したい」**と答えており、子どもの選択を尊重する姿勢と、農業を社会に必要な産業と捉える意識が見て取れました（調査②）。

教育評論家・尾木ママ（尾木直樹氏）に聞く、人を育てる農業体験の力

●教育現場における体験的学びへの注目度は上昇

昨今の教育現場では、体験的な学びや探究的な学びのように、知能指数を表すIQ（Intelligence Quotient）だけでなく、人間性知能と呼ばれるHQ（Humanity Quotient）、いわゆる「人間力」を育む取り組みが注目されています。デジタルネイティブのα世代の子どもたちは、ついスマホやゲームにのめり込みやすい環境にあります。そこで、リアルな現場で“本物に触れる”体験の重要性が増し、体験を通した学びの価値が高まっています。

●農業には、人を育てる力がある！　農業体験はHQを高める「原体験」の宝庫

さまざまな体験の中でも自然を相手にした農業体験は、HQを高める効果が高いといえます。幼少期に体験させたい「原体験」の要素を多く含み、「自然体験が豊富な子どもほど自己肯定感が高く、自立的行動習慣や探究力が身についている傾向がある※」という報告もあるなど、農業には人を育てる力があるといえるでしょう。

※出典「青少年の体験活動等に関する意識調査（令和元年度調査）」（国立青少年教育振興機構）　https://www.niye.go.jp/research/past_research.html

●農業体験は、「徳育」にも「食育」にも

農業体験は、自分で作物を育てることで命あるものに対するリスペクトの気持ちが育まれ、道徳心や情操豊かな人間性を育む「徳育」にもつながります。また、今回の調査では、子どもの食生活で意識しながらも実践できていないこととして「好き嫌いの解消」や「バランスの良い食生活の実践」に悩む親御さんも多く見られましたが、農業体験をしたことにより嫌いな野菜が食べられるようなったというのはよく聞く話で、もちろん「食育」にも効果大です。

●農業体験は子育ての味方！

農業体験は子どものこころの成長を促しますが、親御さんからすれば、自然や農業が子どもの成長を促し“子育てを手伝ってくれる”のです。農業体験は子どものためだけではなく、親御さんにもうれしい体験です。お子さんと一緒に泥だらけになって、自然と農業の持つ力を経験してみてください。

調査結果　α世代の子どもを持つ親に聞いた、子どもの農業体験の実態

α世代とはZ世代に続く世代で、2010年以降に生まれた現在15歳以下（中学生以下）の世代を指します。

親がミレニアル世代（1980年代前半から1990年代半ばまでに生まれた人）でデジタル教育に抵抗がなく、幼少期から家庭や教育現場でデジタルデバイスに触れる機会が多いことから、オンラインやバーチャル空間での活動が当たり前になっています。まずは、そんな彼らが農業とどのように接しているのか、4歳から中学3年生までの子どもを持つ親10,000人を対象に行った調査①の結果をご紹介します。

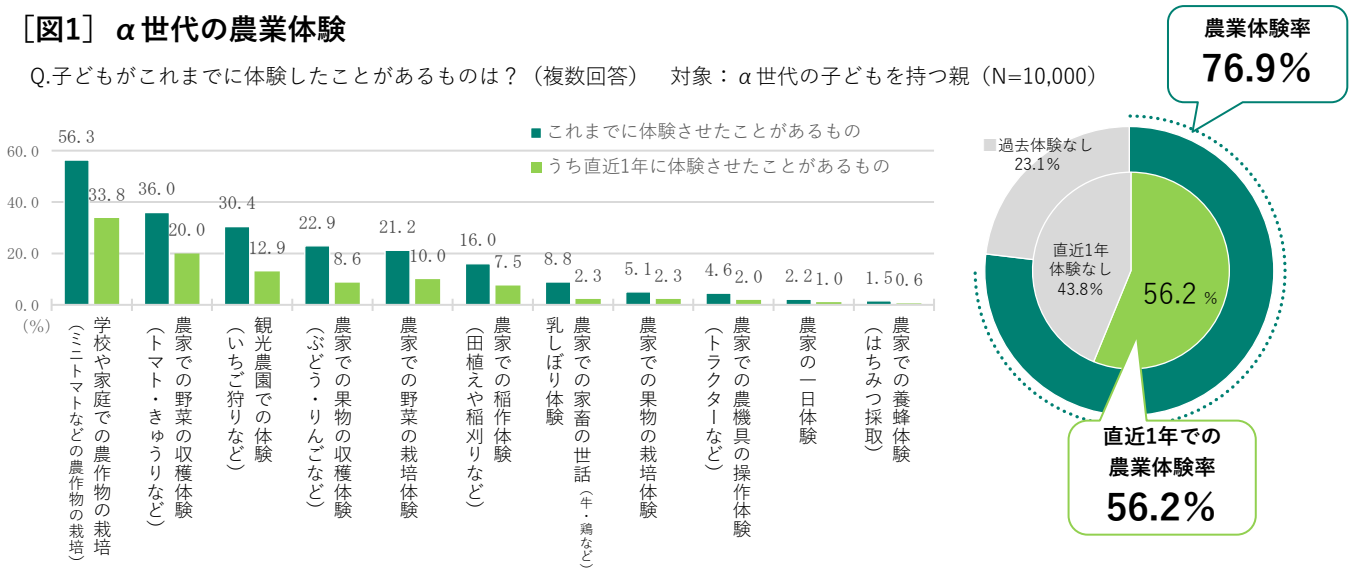
■ α世代の農業体験率76.9%、直近1年では2人に1人が農業体験を経験

子どもの農業体験について親に聞いたところ、過去に自分の子どもが体験したことがあるものは、「学校や家庭での農作物の栽培」（56.3%）、「農家での野菜の収穫体験」（36.0%）、「観光農園での体験（いちご狩りなど）」（30.4%）の順で多く、α世代の76.9%が農業体験の経験があることが分かりました。直近1年間に絞ると体験率は56.2%となり、α世代の2人に1人が農業体験を行っていることになります［図1］。

※当該調査における農業体験とは、田植えや稲刈り、野菜や果物の栽培・収穫など、農業に関わる活動のこと

［図1］α世代の農業体験

Q.子どもがこれまでに体験したことがあるものは？（複数回答）　対象：α世代の子どもを持つ親（N=10,000）



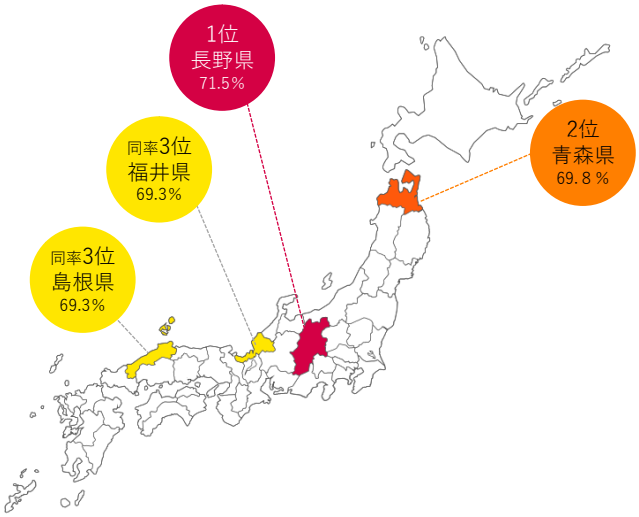
■ α世代の直近1年の農業体験率 1位：長野県、2位：青森県、3位：福井県・島根県

直近1年での農業体験率を都道府県別に見ると、1位「長野県」（71.5%）、2位「青森県」（69.8%）、3位「福井県」「島根県」（同率69.3%）の順でした［図2］。

［図2］α世代の直近1年の農業体験率全国ランキング

1位	長野県	71.5	17位	鳥取県	63.3	33位	静岡県	55.8
2位	青森県	69.8	18位	大分県	63.1	34位	香川県	55.8
同率3位	福井県	69.3	19位	山梨県	61.8	35位	広島県	55.0
	島根県	69.3	20位	高知県	61.4	36位	岐阜県	54.9
5位	宮崎県	67.0	21位	長崎県	60.9	37位	千葉県	53.9
6位	群馬県	66.8	22位	福島県	60.4	38位	茨城県	53.8
7位	山形県	65.6	23位	熊本県	60.0	39位	兵庫県	53.2
8位	徳島県	65.6	24位	京都府	59.8	40位	福岡県	53.2
9位	鹿児島県	65.1	25位	石川県	59.3	41位	愛知県	53.0
10位	栃木県	64.9	26位	三重県	58.8	42位	埼玉県	52.5
11位	佐賀県	64.7	27位	宮城県	58.3	43位	岡山県	51.7
12位	秋田県	64.4	28位	奈良県	57.8	44位	東京都	49.8
13位	岩手県	64.2	29位	山口県	57.6	45位	神奈川県	49.2
14位	富山県	64.0	30位	北海道	57.4	46位	大阪府	46.4
15位	愛媛県	63.8	31位	和歌山県	56.1	47位	沖縄県	44.7
16位	新潟県	63.7	32位	滋賀県	56.0	全国平均		56.2

α世代の子どもを持つ親（N=10,000）（%）

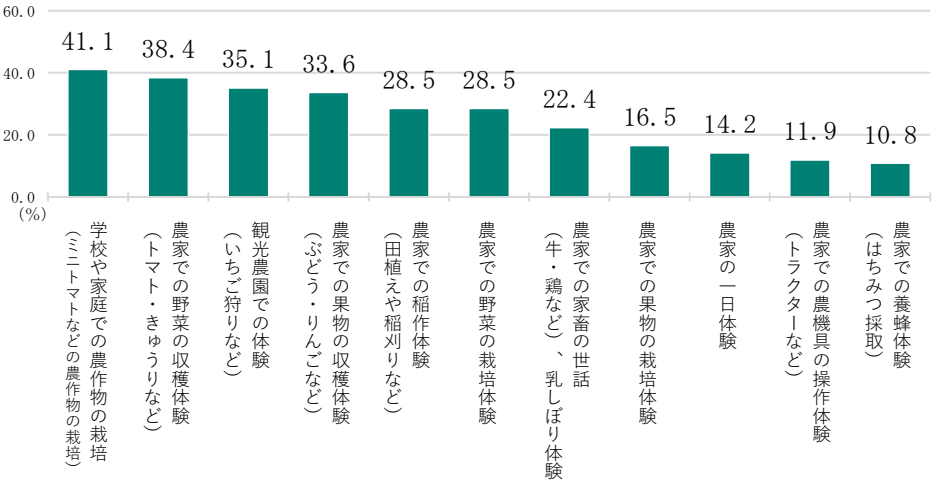


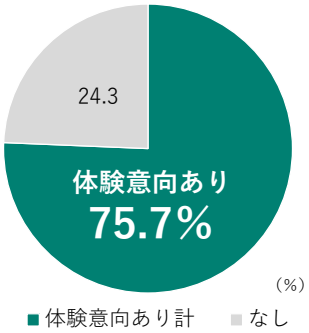
■ 子どもの農業体験に対する親の意向は75.7％と高い

これまでの経験にかかわらず、「今後、子どもに農業体験をさせたいか」と聞くと、75.7％の親が子どもに「農業体験をさせたい」と答えました。また、体験させたい内容としては、「学校や家庭での農作物の栽培」（41.1％）、「農家での野菜の収穫体験」（38.4％）、「観光農園での体験（いちご狩りなど）」（35.1％）が上位に挙がりました［図3］。

［図3］今後の農業体験意向

Q.子どもにこれから体験させたいものは？（複数回答）　対象：α世代の子どもを持つ親（N=10,000）





■ 約８割の親が食農教育や農業体験の機会が「少ない」「もっと機会が欲しい」と回答
直近１年以内に子どもが農業体験をした親はさらにその思いが強い傾向

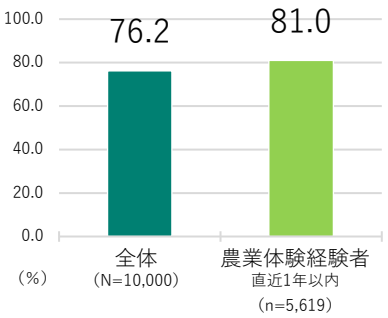
次に、住んでいる地域や学校での食農教育※や農業体験の機会について、4段階（そう思う、ややそう思う、あまりそう思わない、そう思わない）で答えてもらいました。「そう思う」「ややそう思う」の合計値を見ると、学校や地域での食農教育の機会について、76.2％の親が「もっと欲しい」と答えており、農業体験の機会についても、77.7％が「少ない」、75.7％が「もっと欲しい」と答えました。また、直近１年以内に子どもが農業体験をした親は、食農教育の機会が「もっと欲しい」（81.0％）、農業体験の機会が「少ない」（81.0％）、農業体験の機会が「もっと欲しい」（81.7％）、と食農教育や農業体験の機会に対する思いが強くなる傾向があることが分かりました［図4］。

※食農教育とは、食育に加え、私たちの食を支える全国各地のさまざまな形の農業活動を知り、体験する機会（農業体験も含む）のこと

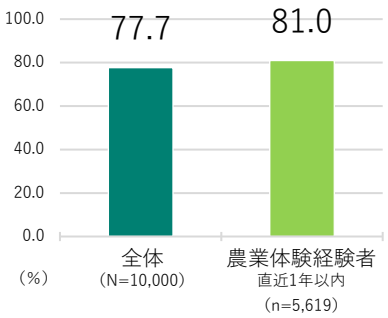
［図4］地域での食農教育・農業体験に対する意見

Q.住んでいる地域や学校での子どもの食農教育や農業体験の機会について　対象：α世代の子どもを持つ親（N=10,000）
（スコアは「そう思う」「ややそう思う」の合計値）

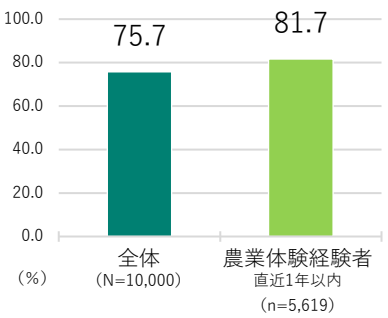
①学校や地域での食農教育の機会が「もっと欲しい」



②子どもができる農業体験の機会が「少ない」



③子どもができる農業体験の機会が「もっと欲しい」



ここからは、子どもに「農業体験をさせたい」と答えた親のうち、2,350人（47都道府県ごとに各50人）を対象に、農業体験をさせたい理由や魅力、教育効果について、さらに詳しく聞いた調査②の結果をご紹介します。

■ 農業体験をさせたい理由は「食べ物ができる過程や大切さを理解して欲しい」

■ 魅力は「食べ物が育つ過程を学べる」「食べ物や命のありがたみを感じられる」こと

初めに、農業体験をさせたいと思う理由を聞くと、「食べ物ができる過程や大切さを理解してほしいから」（57.6%）、「自然に触れさせたいから」（56.3%）、「食べ物を作る人に感謝してほしいから」（55.7%）、「学校や日常生活では得られない経験をしてほしいから」（47.8%）、「食や農に興味を持ってほしいから」（44.3%）といった理由が上位に挙げられました［図5］。

次に、 調査対象2,350人のうち「実際に子どもに農業体験をさせたことのある」と回答した親2,164人に農業体験を行うことの魅力を聞くと、「食べ物が育つ過程を学べる」（64.0%）、「食べ物や命のありがたみを感じられる」（63.6%）、「自然体験ができる」（61.3%）、「学校や日常生活では得られない学びを体験できる」（56.7%）が上位となりました［図6］。

［図5］子どもに農業体験させたい理由TOP5

Q.子どもに農業体験をさせたい理由は？（複数回答）
対象：子どもに農業体験をさせたい親（n=2,350）

食べ物ができる過程や大切さを理解してほしいから	57.6
自然に触れさせたいから	56.3
食べ物を作る人に感謝してほしいから	55.7
学校や日常生活では得られない経験をしてほしいから	47.8
食や農に興味を持ってほしいから	44.3

（%）

［図6］農業体験をさせることの魅力TOP5

Q.子どもに農業体験をさせることの魅力は？（複数回答）
対象：子どもに農業体験をさせた親（n=2,164）

食べ物が育つ過程を学べる	64.0
食べ物や命のありがたみを感じられる	63.6
自然体験ができる	61.3
学校や日常生活では得られない学びを体験できる	56.7
四季折々の自然や風景を感じられる	37.1

（%）

■ 農業体験を通じて身についた「感謝するこころ」「自然を大切にするこころ」

農業体験をさせたい親に、農業体験に限らず子どもに身につけてほしいことを聞くと、「感謝するこころ」（68.1%）、「コミュニケーション力」（57.2%）、「協調性」（55.0%）、「自然や環境を大切にするこころ」（53.0%）、「思考力」（52.2%）が上位に挙げられました。

次に、実際に子どもに農業体験をさせたことがある親に、農業体験を通じて子どもに身についたと思うものを聞くと、「自然や環境を大切にするこころ」（31.7%）、「感謝するこころ」（26.1%）、「観察力」（16.9%）、「探究心」（10.5%）、「心や情緒の安定」（9.7%）が上位となりました［図7］。

農業体験により、子どもに身につけてほしい上位5つのうち「自然や環境を大切にするこころ」「感謝するこころ」の２つが実際に獲得できるようです。

［図7］子どもに身につけさせたいこと

①農業体験に関係なく身につけてほしいこと

感謝するこころ	68.1
コミュニケーション力	57.2
協調性	55.0
自然や環境を大切にするこころ	53.0
思考力	52.2

子どもに農業体験をさせたい親（n=2,350）　（%）

②農業体験を通じて子どもに身についたこと

自然や環境を大切にするこころ	31.7
感謝するこころ	26.1
観察力	16.9
探究心	10.5
心や情緒の安定	9.7

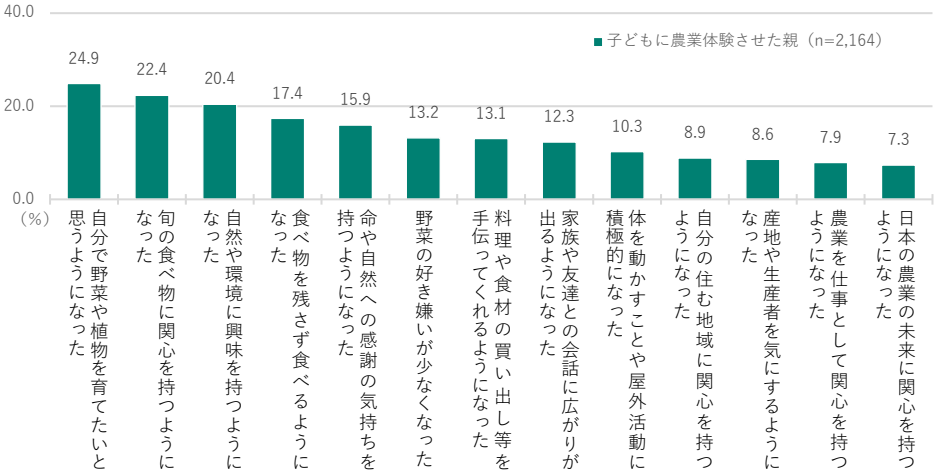
子どもに農業体験をさせた親（n=2,164）　（%）

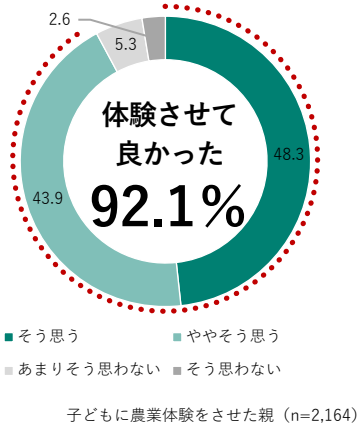
■ 親の9割以上が、子どもに「農業体験をさせて良かった」と実感

「実際に子どもに農業体験をさせた親」に、農業体験をさせたことで子どもにどんな変化が見られたか、当てはまるものを聞いてみました。すると、「自分で野菜や植物を育てたいと思うようになった」（24.9%）、「旬の食べ物に関心を持つようになった」（22.4%）、「自然や環境に興味を持つようになった」（20.4%）が上位に挙げられ、また、92.1%が「農業体験をさせて良かった」（そう思う48.3%＋ややそう思う43.9%）と答えました［図8］。

［図8］農業体験をさせたことによる子どもの変化

Q.子どもに農業体験をさせたことでどのような意識や行動の変化が見られましたか？（複数回答）　対象：農業体験させた親（n=2,164）





■ 農業体験を通じて、約8割の親が子どもの「成長」「達成感の経験」「良い変化」を実感

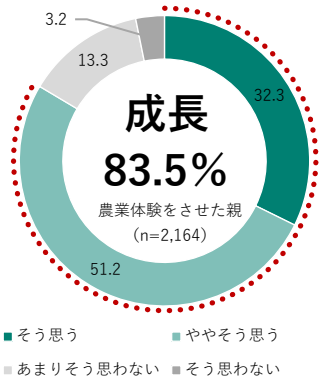
「実際に子どもに農業体験をさせた親」に農業体験をさせたことの教育効果を聞きました。83.5%が「子どもの成長を実感」（そう思う32.3%＋ややそう思う51.2%）、82.2%が「子どもに達成感を経験させられた」（そう思う29.3%＋ややそう思う53.0%）、81.1%が「良い変化を感じた」（そう思う29.2%＋ややそう思う51.9%）と答えました［図9］。

「子どもに農業体験をさせた親」の8割以上が、子どものポジティブな変化を実感しています。

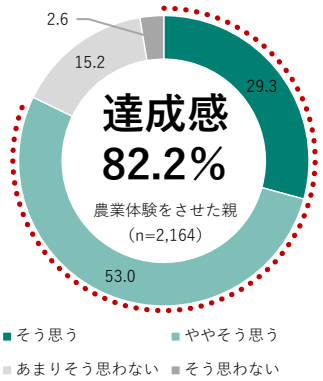
［図9］農業体験をさせて感じたこと

Q.子どもに農業体験させたことについて、どのように感じてますか？　対象：農業体験をさせた親（n=2,164）

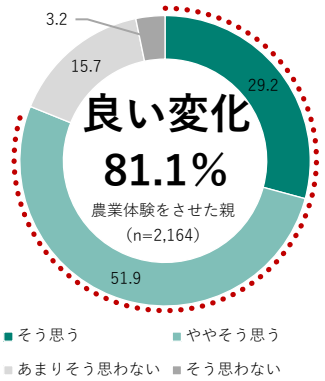
①子どもの成長を実感



②達成感を経験させられた



③良い変化を感じた



■ 親の8割以上が子どもが農業をしたいと言ったら「応援する」と尊重

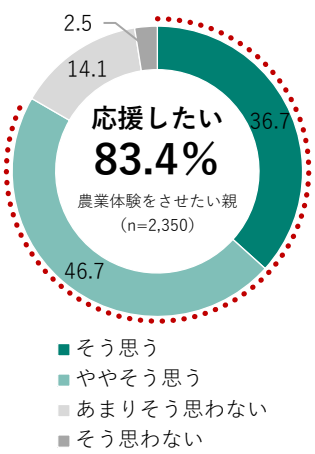
多くの親が子どもが農業に向き合うことにポジティブな印象を持っていますが、子どもが「将来、農業をしたい」と言ったら応援したいかと聞いてみました。すると、83.4%が「応援したい」（そう思う36.7%＋ややそう思う46.7%）と答えました。

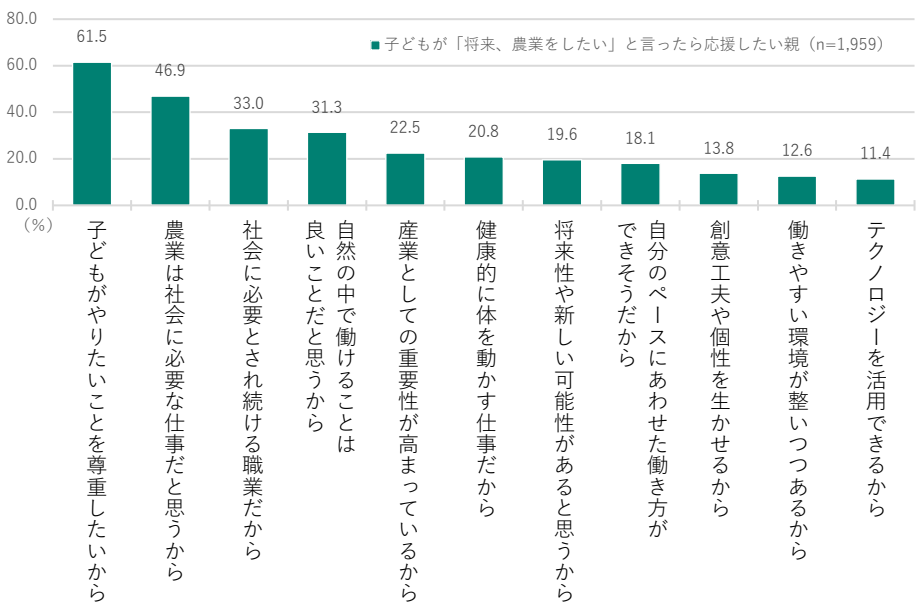
「応援したいと答えた親」にその理由を聞くと、「子どもがやりたいことを尊重したいから」（61.5%）が最も高く、次いで「農業は社会に必要な仕事だと思うから」（46.9%）、「社会に必要とされ続ける職業だから」（33.0%）、「自然の中で働けることは良いことだと思うから」（31.3%）、「産業としての重要性が高まっているから」（22.5%）といった理由が上位に挙げられました［図10］。

後継者不足や過去には3K（「きつそう」、「きたない」、「キケン」）と呼ばれた産業でしたが、生活の基幹産業として見直しや各種の支援策などにより、持続可能な社会を支えるサステナブルな職業として注目されているようです。

［図10］子どもが「将来、農業をしたい」と言ったら…

Q.子どもが「将来、農業をしたい」と言ったら応援したいですか？　その理由は？（複数回答）



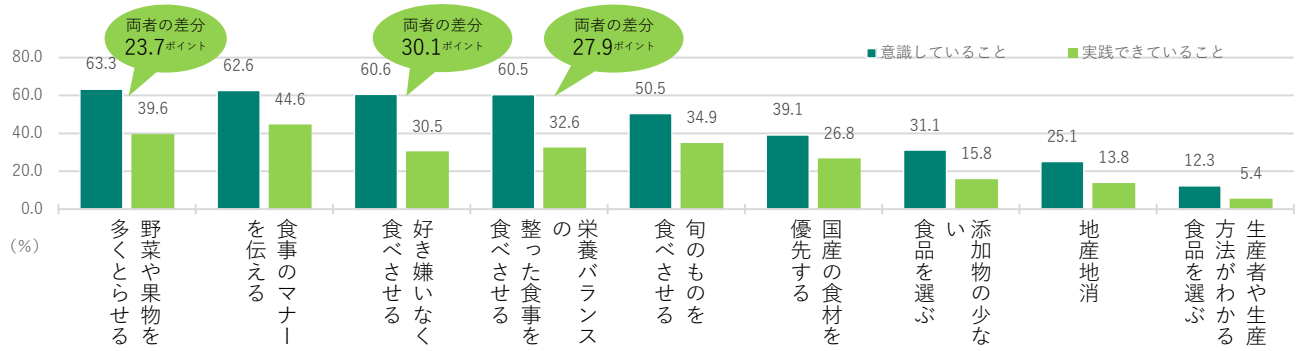


■ 子どもの「好き嫌い」をなくすよう心がけているものの、なかなかできていない…

農業体験させたい親に子どもの食事で意識していることを聞くと、「野菜や果物を多くとらせる」（63.3%）、「食事のマナーを伝える」（62.6%）、「好き嫌いなく食べさせる」（60.6%）、「栄養バランスの整った食事を食べさせる」（60.5%）、「旬のものを食べさせる」（50.5%）の順となりました。そのうち実践できていることは、「食事のマナーを伝える」（44.6%）、「野菜や果物を多くとらせる」（39.6%）、「旬のものを食べさせる」（34.9%）、「栄養バランスの整った食事を食べさせる」（32.6%）、「好き嫌いなく食べさせる」（30.5%）という割合でした。「意識していること」と「実践できていること」の差分が大きい項目は、意識しているのに実践できていないことになりますが、「好き嫌いなく食べさせる」（意識60.6%：実践30.5%　差分30.1ポイント）、「栄養バランスの整った食事を食べさせる」（意識60.5%：実践32.6%　差分27.9ポイント）、「野菜や果物を多くとらせる」（意識63.3%：実践39.6%　差分23.7ポイント）が上位となりました［図11］。子どもの好き嫌いをなくすように意識しているものの、なかなか実践できていない実情が明らかになりました。

［図11］子どもの食事で意識していること・実践できていること

Q.子どもの食事で意識していることと、そのうち実践できていることは？（複数回答）対象：農業体験させたい親（n=2,350）

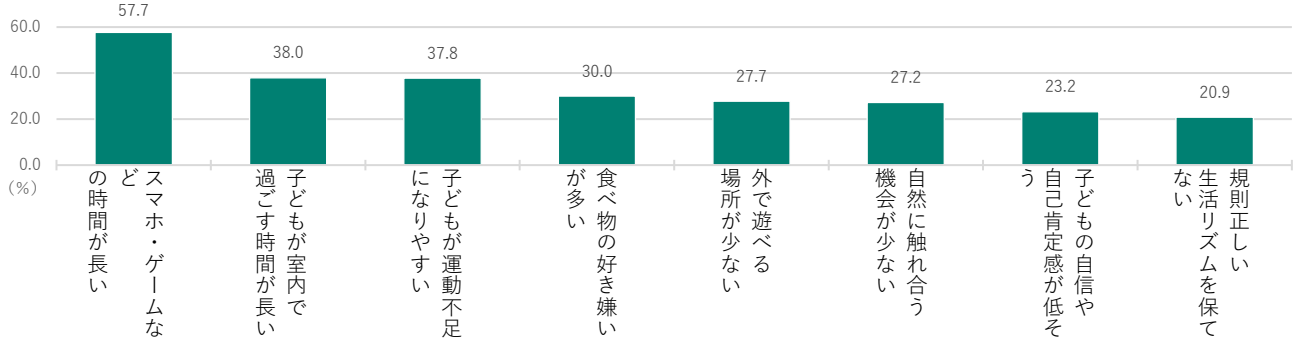


■ α世代の子どもの生活で気になることは「スマホやゲーム時間の長さ」農業体験させることで、少しでも緩和できればという親心も

農業体験させたい親に子どもの生活で気になることを聞くと、「スマホ・ゲームなどの時間が長い」（57.7%）、「子どもが室内で過ごす時間が長い」（38.0%）、「子どもが運動不足になりやすい」（37.8%）、「食べ物の好き嫌いが多い」（30.0%）、「外で遊べる場所が少ない」（27.7%）、「自然に触れ合う機会が少ない」（27.2%）が上位に挙げられました［図12］。農業体験を通じて屋外で体を動かし、食べ物の好き嫌いを解消し、自然と触れ合うことでゲーム時間を控えてくれるようになれば…、そんな親心も農業体験への期待には込められているのかもしれません。

［図12］子どもの生活で気になること

Q.子どもの生活について気になることは？（複数回答）　対象：農業体験させたい親（n=2,350）



子どもに農業をさせたい親2,350人を対象とした調査②では、小学5年生～中学3年生のα世代の子ども本人にも、子どもが隣にいる状態で子どもの意見を親が入力する形式で調査を行いました。ここからは、そのうち、農業体験をしたことがある小学5年生～中学3年生のα世代867人（男子458人、女子409人）の回答をご紹介します。

■ α世代の農業イメージは「社会の役に立つ」が第1位

はじめに、農業に対するイメージを4段階（そう思う、ややそう思う、あまりそう思わない、そう思わない）で聞くと、「そう思う」「ややそう思う」の合計値が最も高いイメージが「社会の役に立つ」（91.3%）でした。「きつそう」（87.7%）という意見があるものの、「面白そう」（68.3%）、「楽しそう」（61.1%）、「やってみたい」（55.6%）というポジティブな意見が多くなっています。かつての3K（「きつそう」87.7%、「きたない」46.0%、「あぶない（キケン）」36.6%）のイメージは希薄になっているようです［図13］。

［図13］α世代の農業イメージ

Q. 農業に対して抱くイメージは？
（「そう思う」「ややそう思う」の合計値）
対象：農業体験をしたことがあるα世代（n=867）

社会の役に立つ	**91.3**
きつそう	87.7
面白そう	68.3
楽しそう	61.1
やってみたい	55.6
自分のペースでできそう	55.1
きたない	46.0
あぶない	36.6
かっこいい	33.2
稼げそう	21.1

（%）

■ α世代の約8割が農業体験を「またやりたい！」

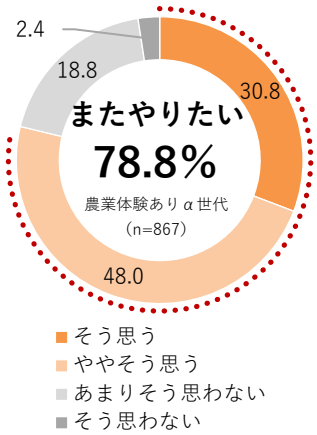
農業体験の感想を4段階（そう思う、ややそう思う、あまりそう思わない、そう思わない）で聞きました。すると、約8割が「またやりたい」（78.8%＝そう思う30.8%＋ややそう思う48.0%）、約9割が「食べ物の大切さを学んだ」（91.2%＝そう思う43.5%＋ややそう思う47.8%）、「農家さんや食べ物に感謝をするようになった」（90.0%＝そう思う39.1%＋ややそう思う50.9%）、「楽しかった」（89.4%＝そう思う38.8%＋ややそう思う50.6%）と答えました［図14］。

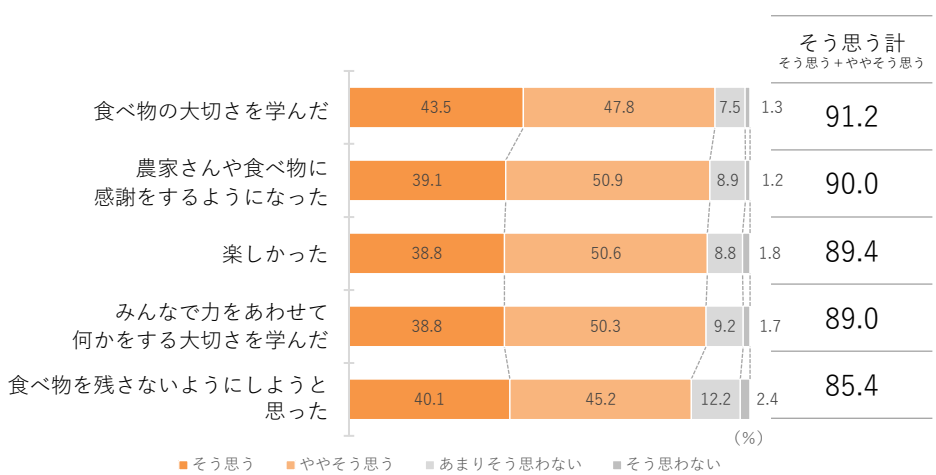
α世代にとっての農業体験は楽しみながらさまざまなことを学べる楽しい経験で、「またやりたい」ものと捉えられています。

［図14］α世代の農業体験の感想

Q.参加した農業体験についての感想は？　対象：農業体験をしたことがあるα世代（n=867）

Q.農業体験をまたやりたいか？





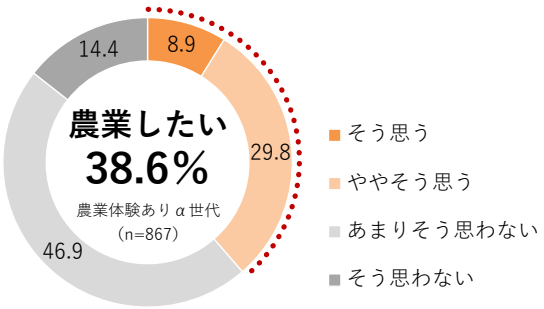
■ α世代の約4割が「将来、農業をしてみたい」

図1の通り、7割以上の人が過去に農業体験をしたことがあるα世代ですが、農業体験をしたことがあるα世代に、将来農業をしてみたいか、4段階（そう思う、ややそう思う、あまりそう思わない、そう思わない）で聞きました。すると、4割近くが「将来、農業をしてみたい」（38.6%＝そう思う8.9%＋ややそう思う29.8%）と意欲を示しました［図15］。

α世代が仕事に就くようになる頃、今とは違う新しい仕事が数多く誕生していると予想されますが、そのような中でも農業はなくなることはなく、今以上に重要性が増すといわれています。新しい農業を担うα世代の活躍が期待できそうな結果となりました。

［図15］将来の就農意欲

Q.将来、農業をしてみたい？
対象：農業体験をしたことがあるα世代（n=867）



■ α世代が育ててみたい農作物TOP3「いちご」「トマト」「スイカ」

α世代が農業体験で育てたことがある農作物は「お米」（43.4%）、「トマト」（41.4%）、「さつまいも」（39.8%）が多く、一方、育ててみたい農作物は「いちご」（36.1%）、「トマト」（25.5%）、「スイカ」（21.2%）の順となり、α世代にはフルーツが人気のようです［図16］。

［図16］α世代の農業体験　育てた農作物・育てたい農作物

Q. 農業体験で①育てたことがある、②育ててみたい農作物は？（複数回答）　対象：農業体験をしたことがあるα世代（n=867）

①α世代が農業体験した農作物

お米	43.4
トマト	41.4
さつまいも	39.8
じゃがいも	29.8
きゅうり	25.4
花（ひまわり・コスモスなど）	20.4
なす	18.1
いちご	16.1
えだまめ	12.1
だいこん	11.3

農業体験をしたことがあるα世代（n=867）　（%）

②α世代が育ててみたい農作物

いちご	36.1
トマト	25.5
スイカ	21.2
さつまいも	19.3
ぶどう	19.3
きゅうり	18.9
メロン	18.3
じゃがいも	18.0
とうもろこし	17.1
お米	17.0

農業体験をしたことがあるα世代（n=867）　（%）

■ 教育現場における体験的学びへの注目度が上昇　ＩＱからＨＱ指標へ

現在、教育現場では自らの興味関心を深める探究的な学びや、体験を通した学びが注目されています。かつては、IQ（Intelligence Quotient）、いわゆる知能指数が重視されていました。しかしAIなどの技術が発展する中で、今はHQ（Humanity Quotient）と呼ばれる社会性や創造性、共感力や学ぶ意欲などの、AIにはない人間力を育む取り組みへの関心が高まっています。これは日本に限らず世界的な潮流です。

α世代と呼ばれる今の子どもたちはデジタルネイティブでもあり、デジタルデバイスを上手に使いこなしますが、その半面、スマホやゲームの世界にのめり込みやすい環境にあることには注意が必要です。だからこそ、仮想空間だけではなくリアルな現実世界での実体験や“本物に触れる”体験を通した学びの価値がより一層高まっています。

■ 農業には人を育てる力がある！　農業体験はＨＱを高める「原体験」の宝庫

様々な体験の中でも、学力の基礎・土台となる探究心や感性を高め、人格形成に大きな影響を及ぼすものに「8つの原体験※1」があります。自然を相手にした農業体験は、HQを高める効果がある8つの原体験の要素を多く含んでいて、幼少期に体験させたいことの一つです。また、「自然体験が豊富な子どもほど、自己肯定感が高く、自立的行動習慣や探究力が身についている傾向がある」※2という報告もあるなど、農業には人を育てる力があるといえます。

※1：火のありがたみと怖さを知る火の体験、泥遊びで手触りや匂いを感じる土の体験のほか、石・水・木・草・動物・ゼロの8つの原体験
※2：出典「青少年の体験活動等に関する意識調査（令和元年度調査）」（国立青少年教育振興機構）　https://www.niye.go.jp/research/past_research.html

■ 「食育」としても、「徳育」としても、効果を期待できる農業体験

今回の調査では、「好き嫌いの解消」や「バランスの良い食生活の実践」に悩む親御さんの様子も見られましたが、農業体験をしたことで嫌いな野菜が食べられるようなったというのはよく聞く話ですね。

実際に自分で作物を育てることで、その成長や成果を目にし、耕作する苦労がよく分かり、命あるものに対するリスペクトの気持ちも育まれます。耕作の過程を学ぶことで「食育」につながるのはもちろん、道徳心や情操豊かな人間性を育む「徳育」への効果も期待できると思います。

さらに、言葉の通じない動植物と触れ合う中では、「元気がないのは、なぜだろう？」などと考えるシーンが多く、相手の気持ちを想像することで、共感力が育まれます。この「なぜ」を考える習慣や共感力は、社会における対人コミュニケーションの土台にもなります。

■ 農業体験は子育ての味方！

農業をしてみたいと思う子や、それを応援したいと考える親御さんが予想以上に多く、正直驚きました。また、実際に体験をした子どもたちの持つ農業イメージの1位は「社会の役に立つ」で9割超と高く、かつて3Kともいわれた農業が、子どもたちにも、親御さん世代にも、ポジティブに捉えられている様子はどこかほっとしましたね。

今回の調査では、農業体験が子どものこころの成長にも効果があることが明らかになりました。親御さんから見れば、農業体験は子育てをサポートしてくれる心強い存在でもあります。「自然や農業に子育てを手伝ってもらう」ような感覚で取り入れ、親子一緒になって体験してみてはいかがでしょうか？

尾木直樹（おぎ・なおき）氏　教育評論家　法政大学名誉教授　東京都立図書館名誉館長
1947年滋賀県生まれ。私立海城高校、東京都公立中学校教師として、22年間子どもを主役とした創造的な教育を展開、その後法政大学教授など22年間大学教育に携わる。主宰する臨床教育研究所「虹」では、現場に密着した調査・研究に取り組む。多数の情報・バラエティー・教養番組にも出演し「尾木ママ」の愛称で幼児からお年寄りにまで親しまれている。

■ JA共済の地域貢献活動「一緒に地域を咲かせよう」

JA共済では全国各地で地域と農業の明るい未来を創るため、地域に根ざしたさまざまな活動に取り組んでいます。地域の皆さんと悩みも喜びも分かち合い、一緒に地域を元気に豊かに咲かせていきたい、という思いを込めた地域貢献活動「一緒に地域を咲かせよう」は全国に広がり、約5,000件ものたくさんの活動が芽吹いています。

具体的には、食育イベントや農業体験の開催支援、ドローンなどの先進機器の寄贈、農業高校への農機具の寄贈など地域の食と農の活性化に向けた取り組みや、健康教室の開催や防災用品などの寄贈、自転車交通安全啓発活動など、「営農・くらし・ひと・いえ・くるま」に関わる取り組みも行っています。

これらの活動は、ホームページにて動画も交えて詳しくご紹介していますので、ぜひご覧ください。

https://social.ja-kyosai.or.jp/prefecture_case/